



2007.8.2
関西空港 第2滑走路オープン

事業概要

(当社の取り組み状況)

2007年5月29日

関西国際空港株式会社



KANSAI INTERNATIONAL AIRPORT Co.,Ltd.

行こう! 飛ぼう! 関空!

2007年8月2日 第2滑走路オープン

1. 関西国際空港の概要

(1) 空港の概要

当社は、関西国際空港の設置及び管理を効率的に行うこと等を目的として、1984年6月に施行された関西国際空港株式会社法に基づき、政府、地方公共団体及び民間の共同出資により設立された特殊法人。

【会社の概要】

- 設立年月日 1984年(昭和59年)10月1日
- 資本金 8,109億円 (2007年3月31日現在)
 - 内訳: 国 5,406億円
 - 地方公共団体(13団体) 1,755億円
 - 民間 948億円
- 役職員数 399名

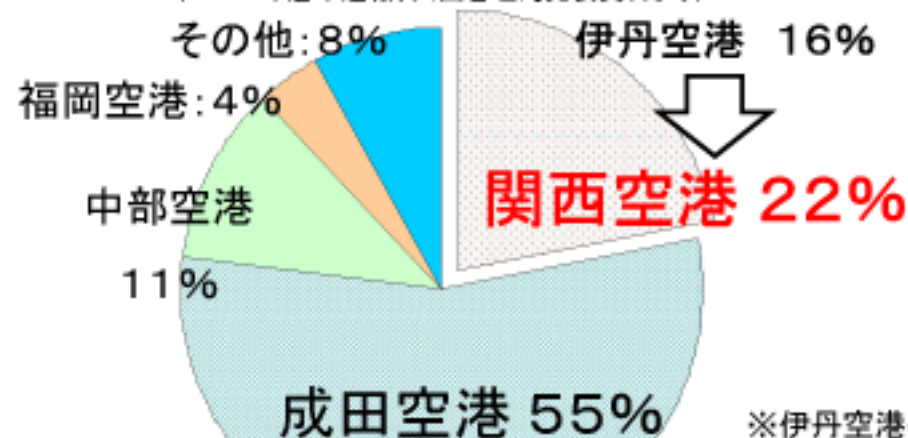
【空港の概要】

- 位置・規模 大阪湾南東部泉州沖5kmの海上
(面積 約510ha、滑走路 3,500m1本)
- 運用実績(2006年度実績)
 - ・離着陸回数 11.6万回 (約319回/日)
 - ・航空旅客数 1,668万人 (約4.6万人/日)
 - ・航空貨物量 80万トン (約2千トン/日)

(2) 空港の特長

日本人出国者

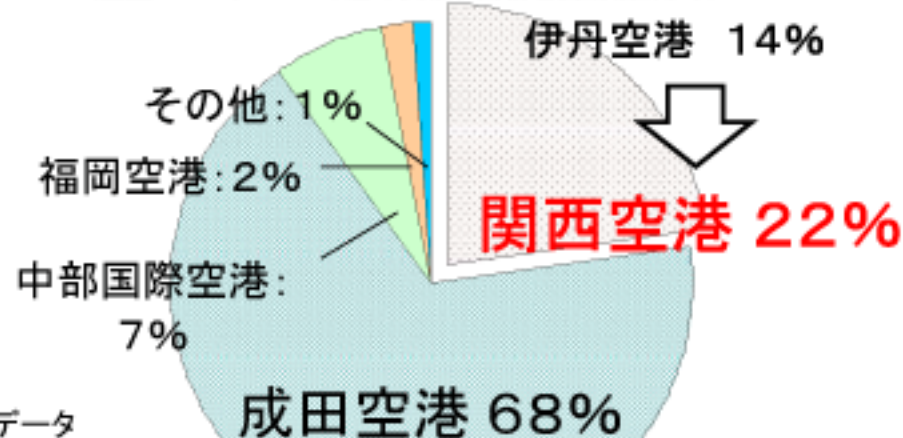
(2006年暦年速報、入国管理局発表資料より)



※端数処理のため、合計値は合致しない。

輸出航空貨物

(重量ベース、2006年暦年実績、財務省貿易統計より)



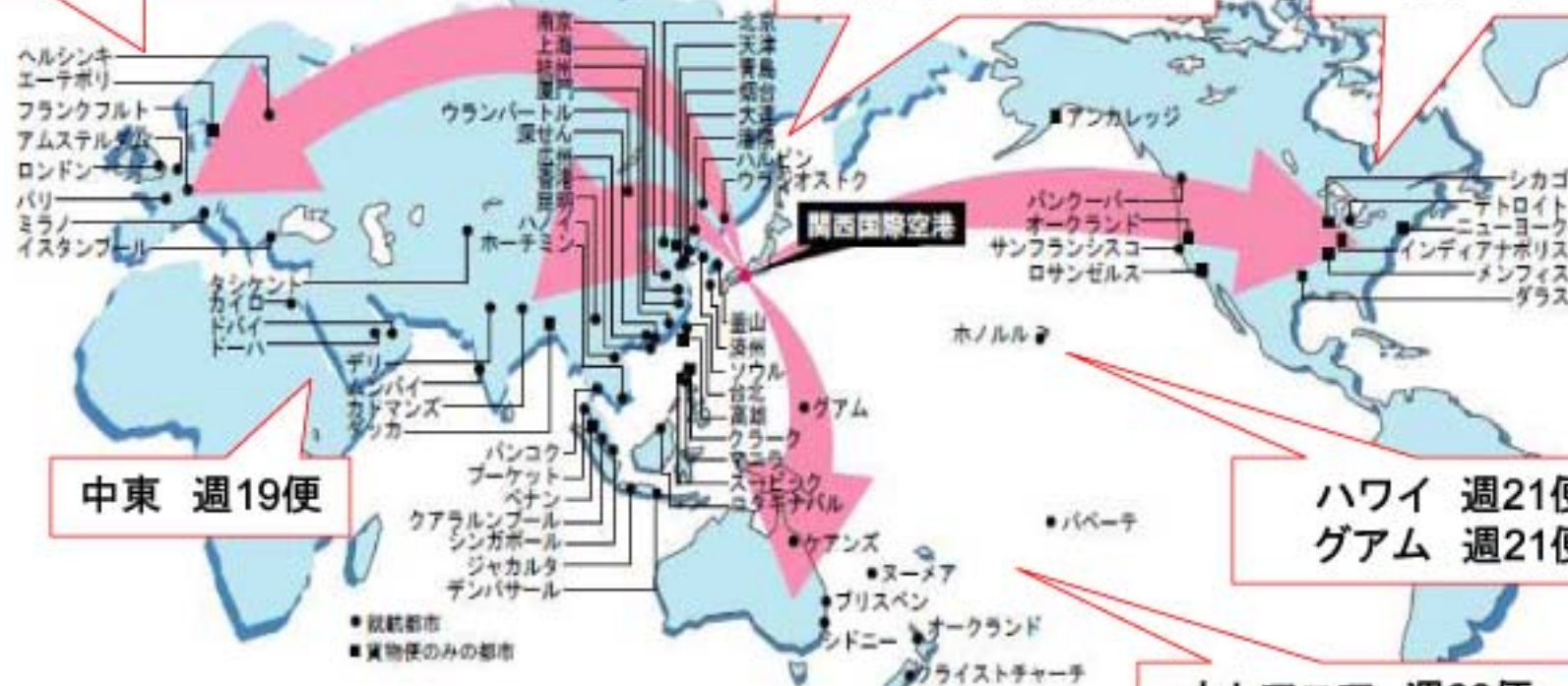
※伊丹空港のデータ
は、1993年実績

2. 関西空港の国際線就航状況(2007年夏期スケジュール)

ヨーロッパ 週53.5便

アジア 週580.5便
うち、中国 週307便

北米 週45.5便



航空会社数 63社
就航国(地域)数 31ヶ国・地域
就航都市数 71都市
就航便数 776便/週
(過去最高!)

就航国(地域)

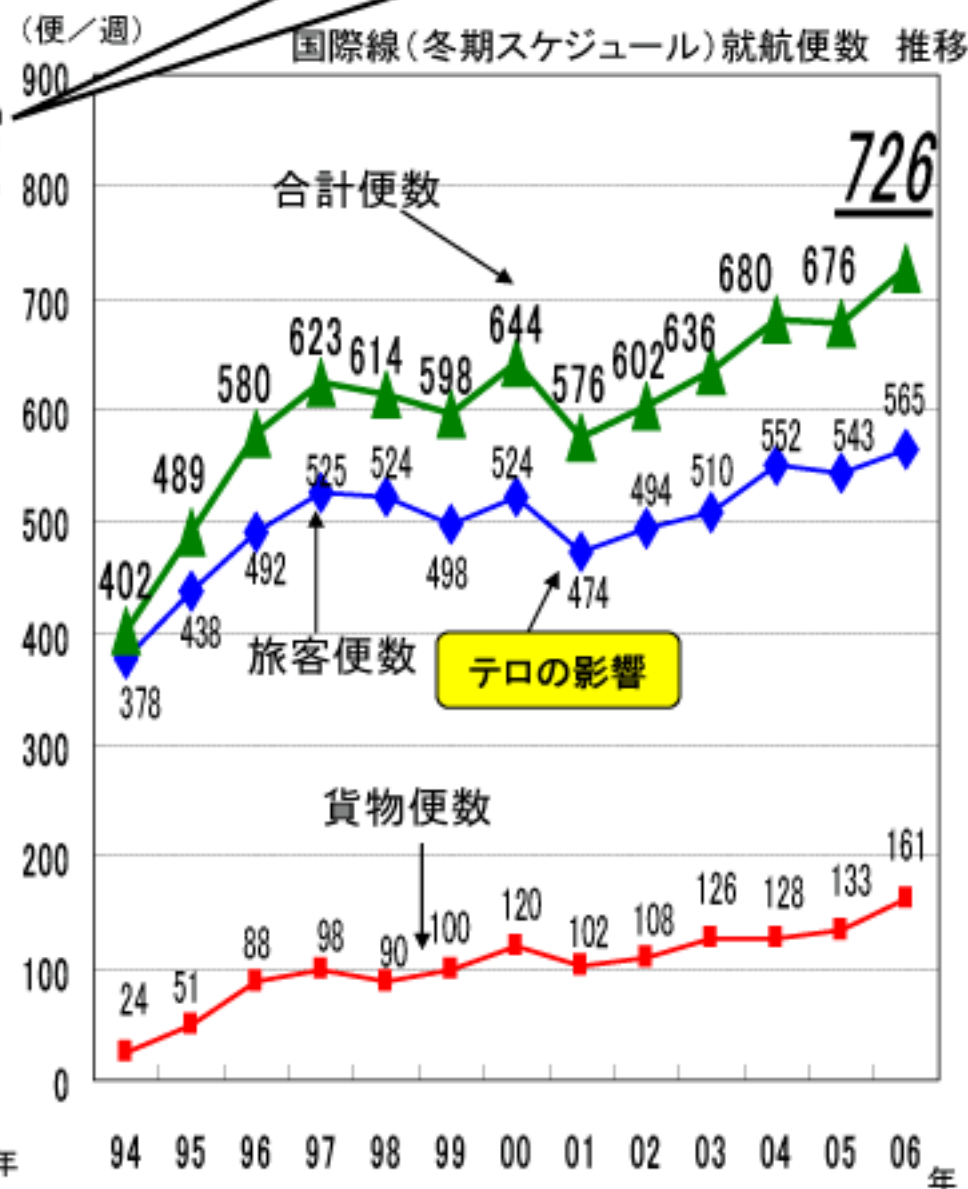
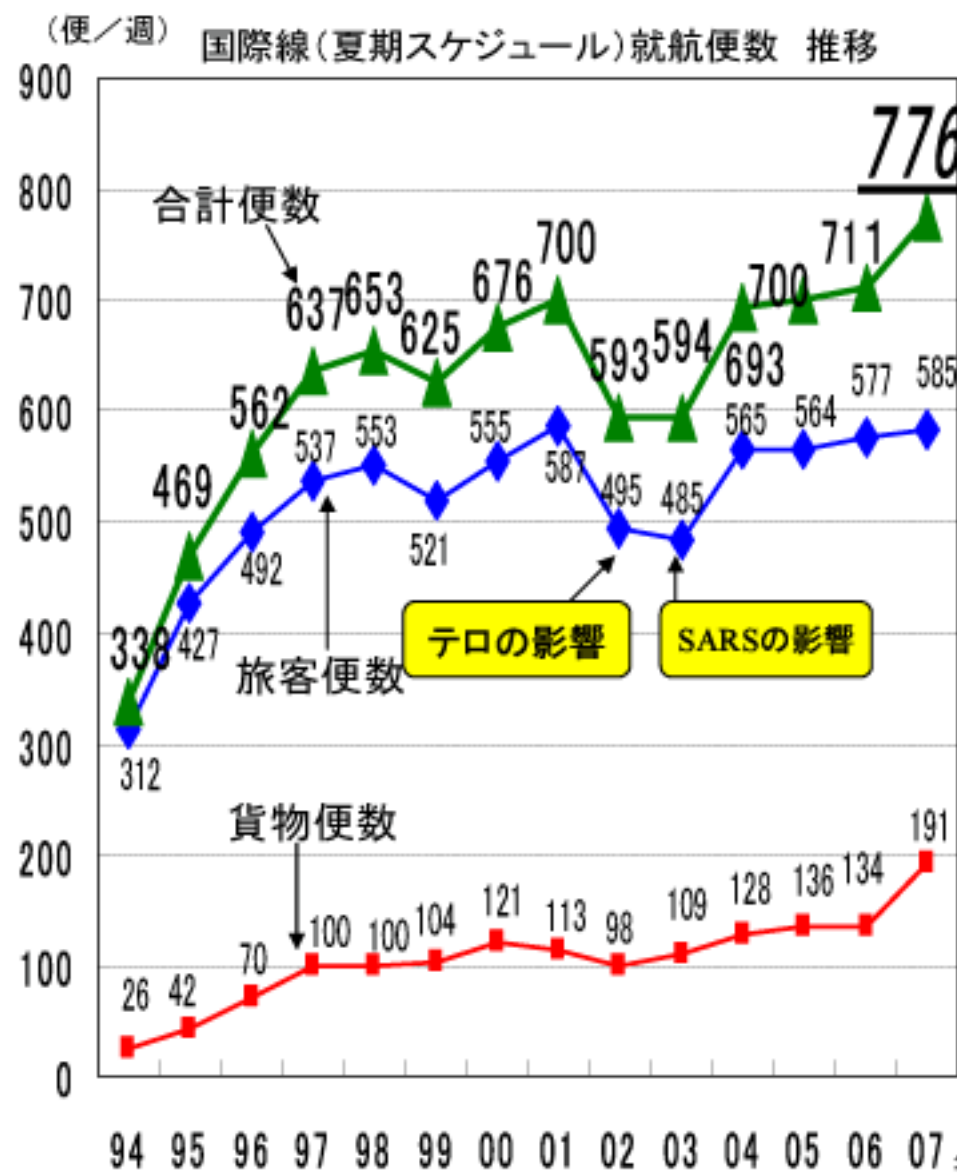
カナダ、アメリカ、(グアム)、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、スウェーデン、フィンランド、トルコ、ウズベキスタン、ロシア、UAE、カタール、エジプト、韓国、中国、(台湾)、モンゴル、フィリピン、ベトナム、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ネパール、インド、バングラデシュ、オーストラリア、ニュージーランド

※各データは関空会社調べ(2007年3月19日現在)



3. 関西空港の国際線就航便数(定期便)の推移

過去最高便数！
71都市(31カ国)に就航



4. 関西空港と中国との充実したネットワーク

貨物と旅客で**週307便**が関空＝中国に就航

2007年夏スケジュールピーク時計画便数。

貨物



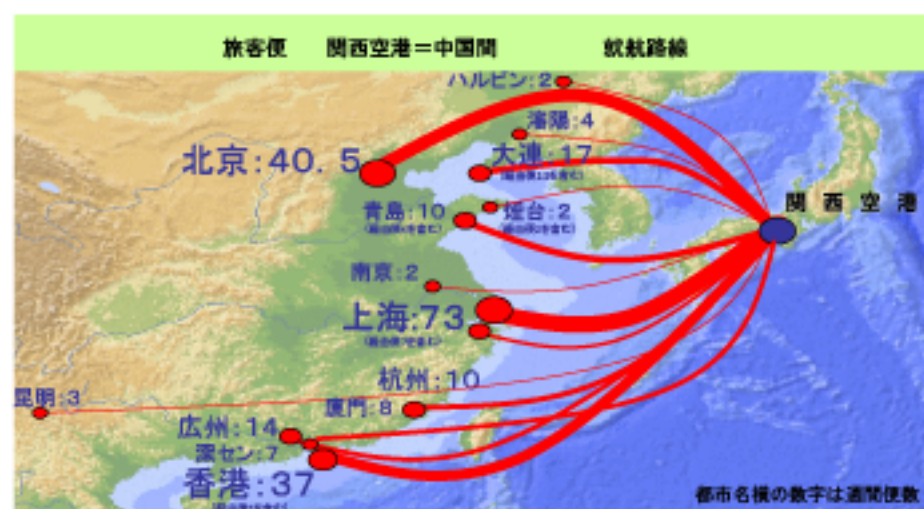
日本では最大の貨物便ネットワーク

- ・ 就航会社数15社
- ・ 就航都市数9都市
- ・ 週間便数96便

成田を上回り、
国内の空港でNO.1！

週96便（貨物便全体の50%）

旅客

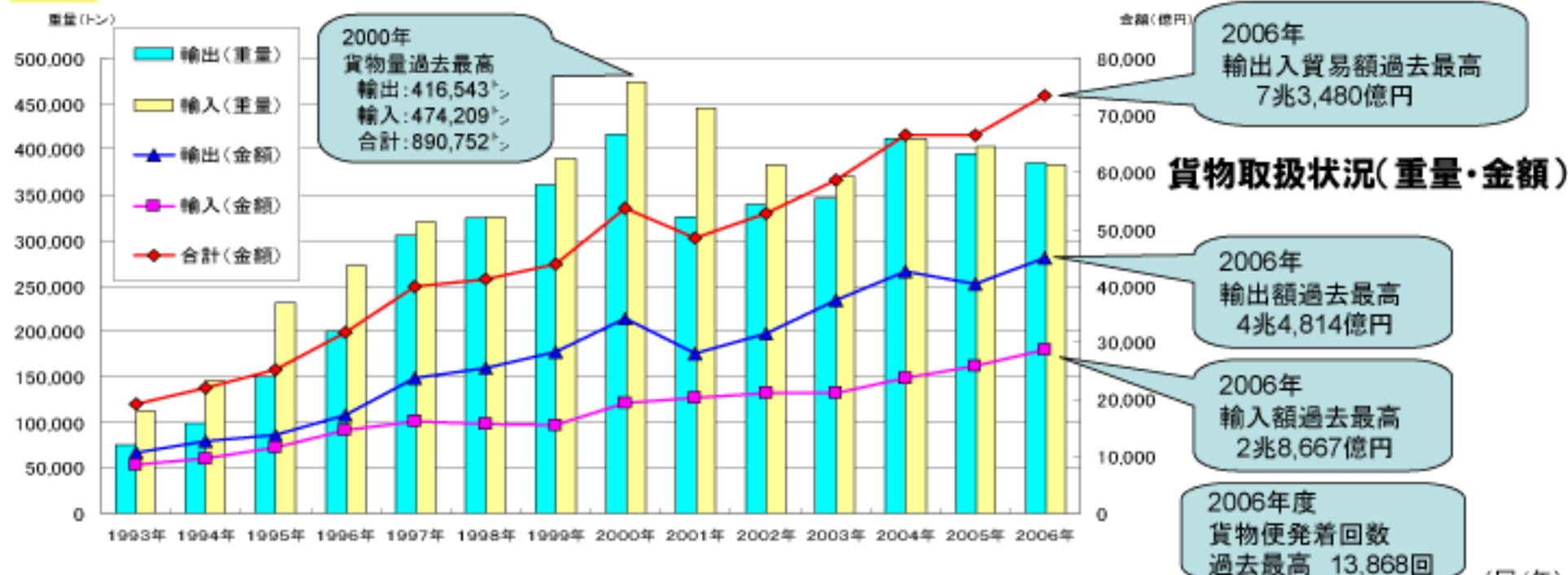


日本では最多の14都市に就航

- ・ 就航会社数14社
- ・ ハルビン・昆明・南京・煙台には、成田からは就航しておらず、関空からのみ就航。

週211便（旅客便全体の36%）

5. 関西空港の国際貨物の動き



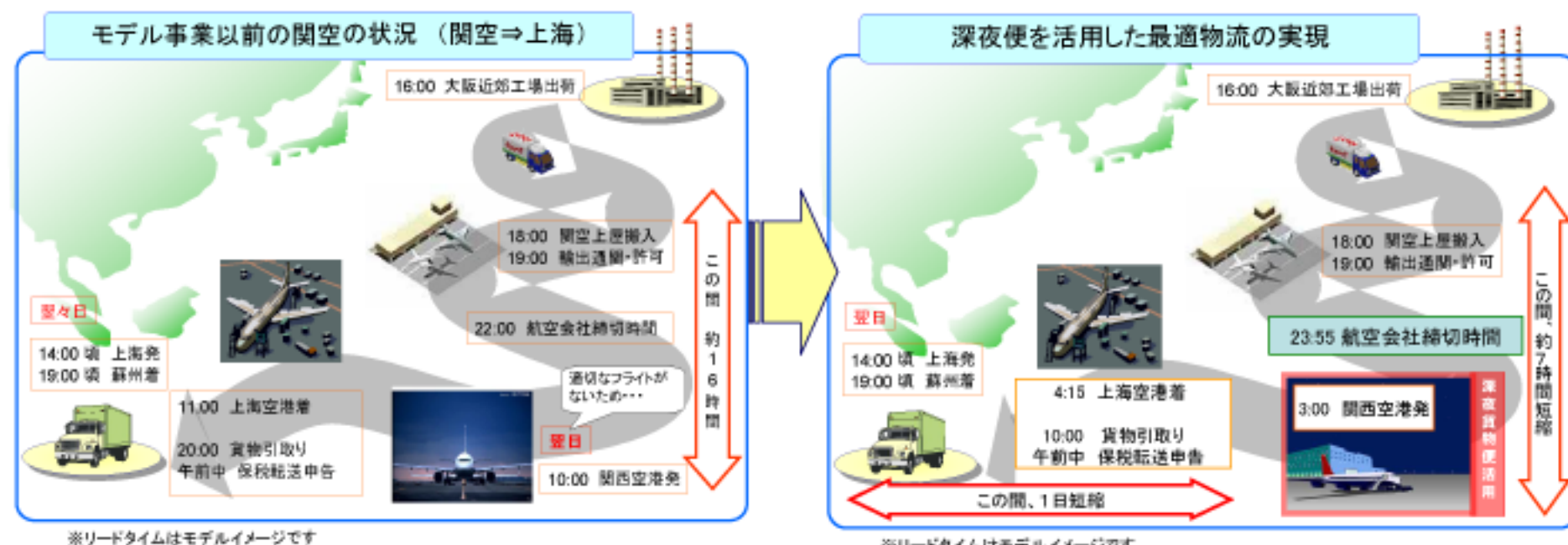
国際線就航便数実績

※週間便数(棒グラフ)は、各年度夏期スケジュールベース。
(2006年冬期までは実績、2007年は計画便数。)



6. 深夜便を活用した国際貨物の取り組み

国際物流戦略チーム深夜便モデル事業 ～深夜便を活用した最適物流の実現～



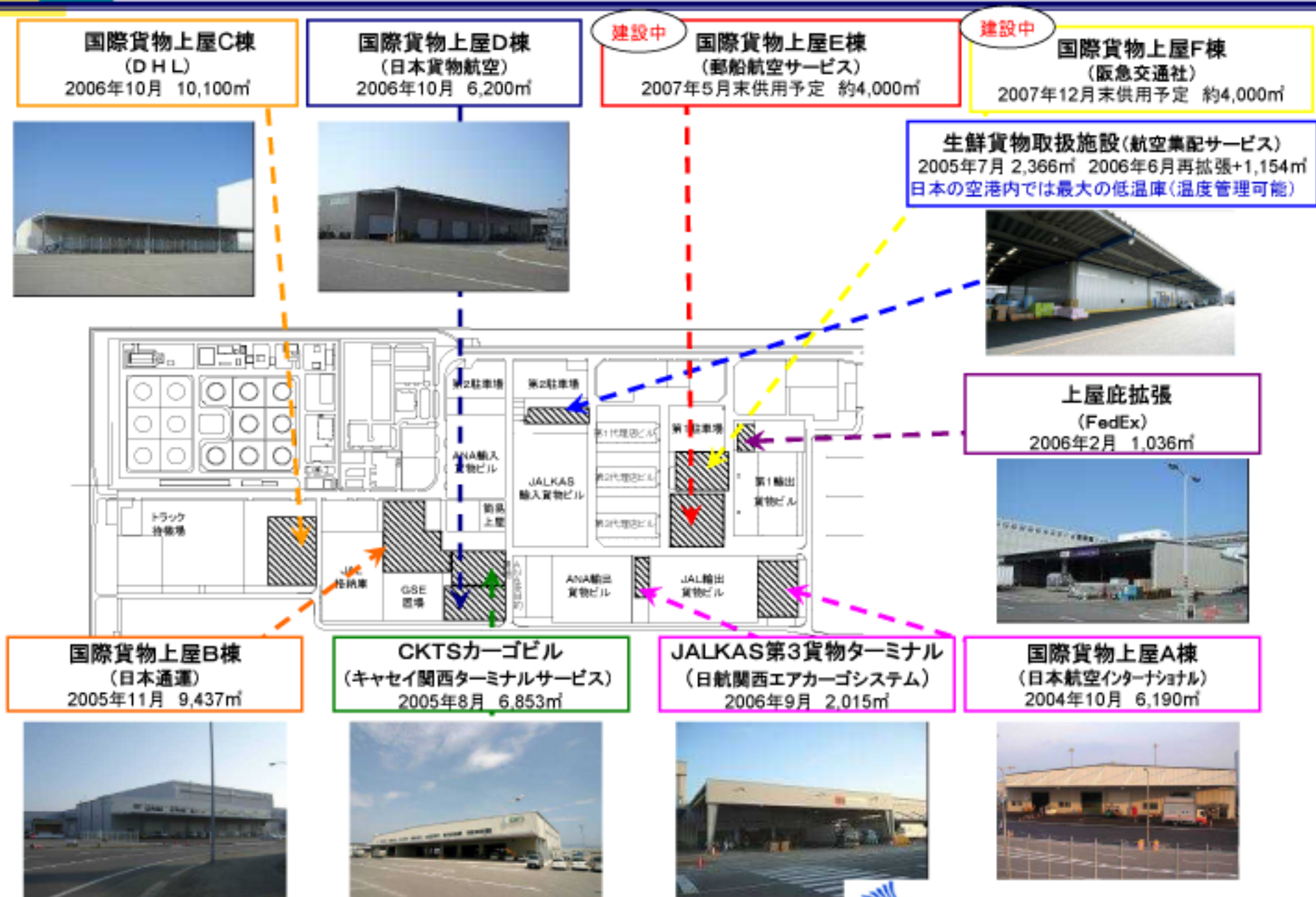
- 深夜に貨物便を運航させることにより、航空貨物の不必要な滞留時間を削減することができる。
- 通関・ハンドリングなど現地の事情に適合した最適な相手国の着陸時間に対応することが可能となる。

2006年8月から週3便の貨物便でスタート

好評であったため、
2006年冬期スケジュールから平日は毎日運航（6便）。
モデル事業終了後、
2007年夏期スケジュールにおいても運航が継続。

高度化・多様化する物流ニーズに対し、深夜貨物便が非常に有効であることが証明！

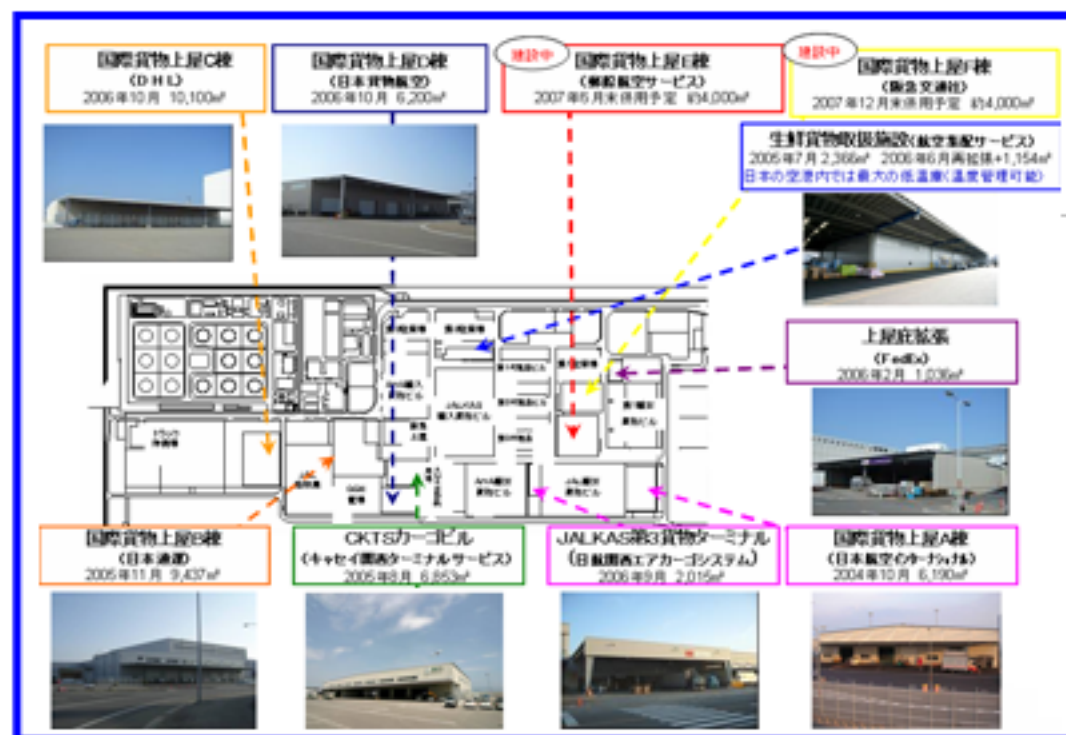
7. 関西空港における国際線貨物取扱施設の大増強



8. 第2滑走路オープン後の貨物施設展開

国際貨物地区の2期空港島への展開

1期国際貨物地区では、2004年秋以降、7棟の貨物上屋を新設、本年中の供用を目指しさらに2棟を増設予定であり、既に拡張余地がないエプロンも、14スポット中13スポットを同時に利用する時間帯が発生しており、既に狭隘化

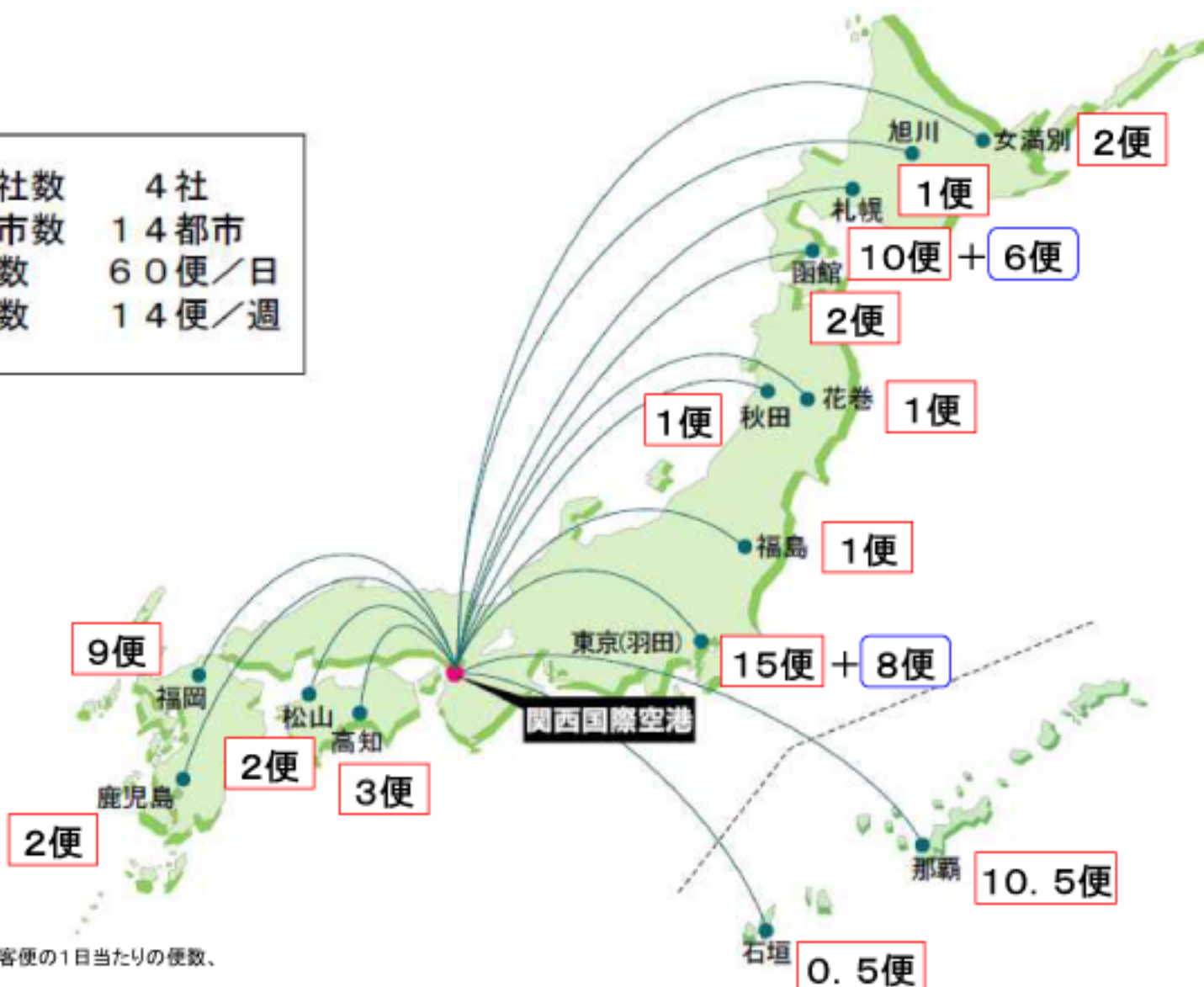


2期国際貨物地区予定箇所

関空の物流機能を引き続き強化するためにも、2期島への展開が必要

9. 関西空港の国内線就航状況(2007年5月)

航空会社数	4社
就航都市数	14都市
旅客便数	60便/日
貨物便数	14便/週



(注) は旅客便の1日当たりの便数、
 は貨物便の1週間当たりの便数。

10. 地元と一体となった利用促進や需要喚起への取り組み

①「関西国際空港利用促進本部」(2005年3月設置)による地元が一丸となった利用促進運動の実施

- ・地元経済界、地元自治体、国土交通省をはじめ、観光業界や航空会社、鉄道会社など多岐にわたる分野の団体、会社のご協力により、本部(本部長:秋山関経連会長)を設置。
- ・従来から取り組んでいる利用促進策のフォローアップとともに、重点項目として、関空アクセスの改善や国際物流戦略への対応、際内乗り継ぎ機能向上などに取り組む。

②経済界協力による「関空利用促進宣言」

- ・海外出張や航空貨物輸送等に際して、関空利用を促進していくことを採択。(現在、1,275社の企業にご賛同)。
- ・各企業内において、関空利用について周知徹底するため、社内通知や通達等を実施して頂く。

③促進協(関西国際空港全体構想促進協議会)による「集客・利用促進事業」(総額7億円)と連携した様々な施策の展開

●新規就航奨励金

新規に路線を開設した航空会社に初年度は着陸料の20%相当(次年度は10%)の奨励金を交付。

●関空プロモーション

これまでのプロモーション活動で得られた実績や信頼関係等を活用し、航空ネットワークの一層の拡充を図るとともに、第2滑走路オープン後に強く期待される関空の国際物流機能を確固たるものにするため、物流機能の強化に向けたプロモーションを一層強化。(中東、インド、中国、台湾、ロシア、米国等)

●週末深夜チャーター便への支援

(関空ーソウル線)

- ・2006年7/14～9/15の間、
大韓航空、アジアナ航空が実施。
⇒平均搭乗率約86%を達成。

※大韓航空実績



●国内地方都市での取り組み

土佐電鉄(高知)への車両ラッピング広告実施
⇒2007年4月より高知線は1便/日から2便/日に増便。



その他、福島、札幌、秋田、
福岡など全国各地で、商品
造成会等をはじめとした国
内プロモーションを実施。

●「関空旅博2007」開催

- ・2007年3/24、25、海外の政府
観光局や航空会社、旅行会社
などのご協力により、旅の魅力
を紹介する博覧会を開催。
⇒両日で約4万人の来場者



●第2滑走路オープンのPR

南海電鉄の特急ラピー
トに、第2滑走路オー
プンをPRする車両ラッ
ピング広告を実施。



●旅行商品への支援

(「関空10点満点」、「関空100点満点」、「関空利用促進ツアーコンペ」)

- ・JTBが主催する「関空10点満点」(各種特典付きで海外7方面全てを網羅する関空発着海外ツアーを、
7～10月の3ヶ月間で実施するもの)に対し支援。加えて今年度は、ビジネスクラス利用に特化した高額
商品「関空100点満点」の企画造成(4～9月)に対しても支援。

⇒販売実績:「関空10点満点」約12,000名、「関空100点満点」約500名

- ・また、関空発着の海外・国内旅行商品の提案を、各旅行代理店よりコンペ形式
で募る「関空利用促進ツアーコンペ」に対しても、昨年度に引き続き支援。

⇒11社が21商品を造成。



11-1. お客様のニーズに合った取り組み

○旅客ターミナルビル 2階北側エリアの再開発

国内空港初！ 24時間営業の空港ラウンジ誕生

- ・深夜、早朝に利用されるお客様ニーズに対応するため、インターネットカフェ機能を加えた日本初の24時間営業の空港ラウンジをオープン（2007年3月23日～）
- ・これまでの「関空ラウンジ」をスペースを拡張して改装。レディーススペースやキッズルーム、シアタールームなど多様な部屋を用意



【ゆったりした居住空間を創出】



【多数の雑誌や新聞等を用意】

○「KANKU CLUBカード」の発行

- ・関空をご利用して頂くお客様に、もっと関空を便利にお使い頂くことを目的として発行（2006年4月～）
- ・関空アクセス料金の割引や、航空会社へのマイル交換、カード専用ラウンジ（CLUB LOUNGE）オープンなどのサービス拡大を順次実施
⇒1万人を超えるお客様が入会



○旅客ターミナルビル 2階北側飲食区画の大規模改修

- ・増加するお客様に対応するため、空間効率の高いフードコートスタイルの飲食ゾーン「ダイニングコート 町家小路」としてリニューアルオープン（2006年7月7日～）
⇒町家小路の全体の売上は前年比約116%、客数は138%
（オープンから2007年1月末までの実績、同区画前年比）



11-2. お客様のニーズに合った取り組み

○免税店事業の取り組み

- ・17年度のブランドブティック充実引き続き、18年度も北ウイング一般免税店の改装を実施
⇒前年度対比140%
- ・直営免税店(ブランドブティック含む)の売上げが過去最高！
⇒前年度対比106% 売上げ130億円超



《 最近の動き 》

- ・2006年度については、英国テロ未遂事件に伴う液体物機内持込制限という大きなマイナス要因が発生しているものの、団体客の取り込みを始めとした販売努力等により、前年を超える売上高を維持



○その他の取り組み

- ・ペットホテルの増築 (2006年12月21日)
- ・空港連絡橋料金所へのETC導入 (2007年3月1日) など



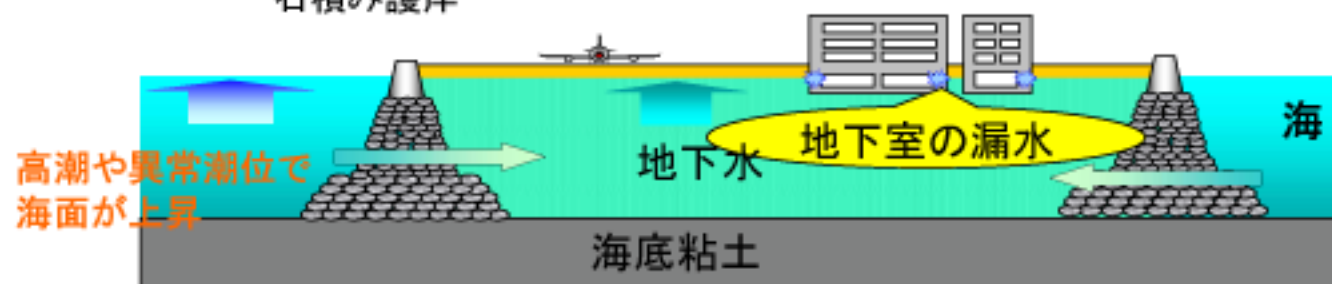
12. 安全・安心な空港づくり(地下水対策)

1期島の地下水対策事業として2000年より取り組みを開始し、2006年11月に、以下の基本対策が完成。この完成により、1期島の地下水に係る課題が恒久的に解決！

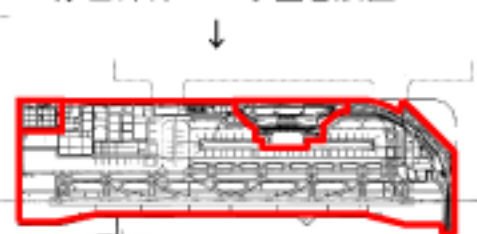
- ①雨水用排水ポンプの設置(集中豪雨対策)
- ②護岸の嵩上げ(高波対策)
- ③止水壁の設置(高潮位による地下水位上昇対策)

<止水壁設置の詳細>

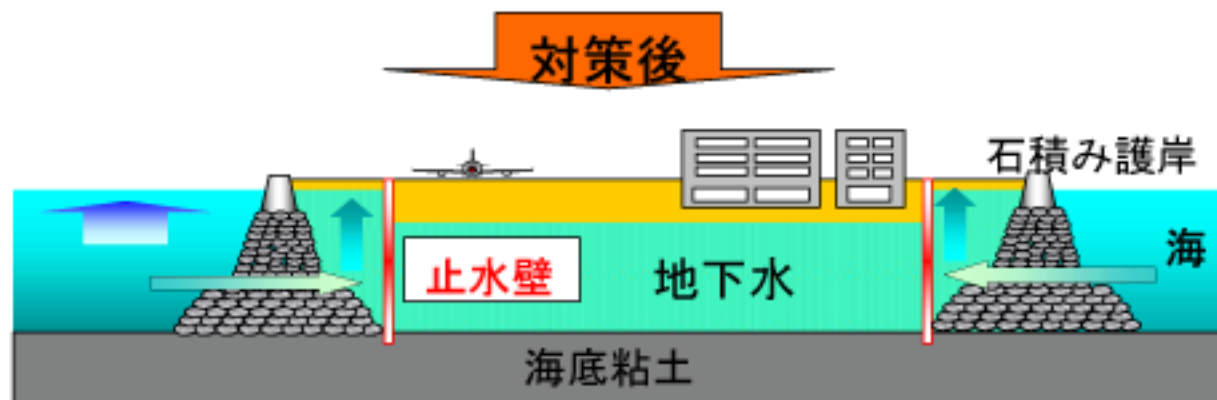
石積み護岸



赤色部分に止水壁を設置



対策後



地下水対策事業完成記念碑

最重要項目10

「航空自由化(アジア・オープンスカイ)」に向けた航空政策の転換

～航空自由化(アジア・オープンスカイ)による戦略的な国際航空ネットワークの構築、羽田の更なる国際化、大都市圏国際空港の24時間化(抜粋)

- 関西国際空港・中部国際空港は、我が国を代表する国際拠点空港として、ふさわしい路線の開設や増便が実現できるよう、アジア各国との間で互いに、旅客分野、貨物分野の双方について、事業会社、乗入地点、便数の制約をなくす「航空自由化」を二国間交渉により推進する。併せて、国内空港とのネットワークの充実や機能分担等により、国際競争力の強化のための施策を推進する。
- まず、中国をはじめとするアジアの各国との自由化交渉を推進する。(アジアを優先)
- 大都市圏国際空港は、国内航空ネットワークを海外に繋げる重要な結節点。現在は低調な深夜早朝利用を促進し(24時間化)、国際空港として、最大限有効活用する。
- 羽田ー関空ー海外の路線展開と乗り継ぎ利便の改善を推進する。

重点7分野

人流・物流ビッグバン

～利用者の視点に立った航空・港湾・貿易手続の大改革(抜粋)

- 関西国際空港・中部国際空港の早朝深夜活用の推進と国際競争力の強化
 - ・関西国際空港、中部国際空港については、地理的・経済的にアジアに近く、24時間運用をいかしてフルに活用することが重要。関西国際空港については、本年8月に2本目の滑走路供用により日本初の完全24時間空港となるものの、アジア諸国との競争を踏まえ、連絡橋料金引き下げをはじめとするアクセスの改善、財務構造の抜本的改善等を通じた国際競争力の強化、物流関連施設の整備等を検討し、フル活用を図っていく。
- 関西国際空港・中部国際空港の旅客利便の向上、深夜早朝の活用と迅速で便利な国際物流の実現
 - ・国際旅客の利便向上のための様々な取組を、特区の活用も視野に推進。
 - ・日中間の貨物の翌朝配送を可能とする等24時間運用空港のメリットを活かす深夜貨物便の取組について、インタクト輸送等も活用しつつ推進。
 - ・深夜の利用促進のため、関西国際空港の物流施設の2期島への展開(中略)に加え、特区の活用も視野に改善。